

小中一貫教育だより

川島町教育委員会教育総務課
学校統合推進室 市川 俊実
NO. 3 令和5年9月 発行

川島町教育研究会主催 教育講演会 8月25日(金)

教育研究会は、教職員の資質・能力の向上と教育の振興を目的に、町内小・中学校の教職員で自主的に、教育に関する調査や研究などに取り組んでいる団体です

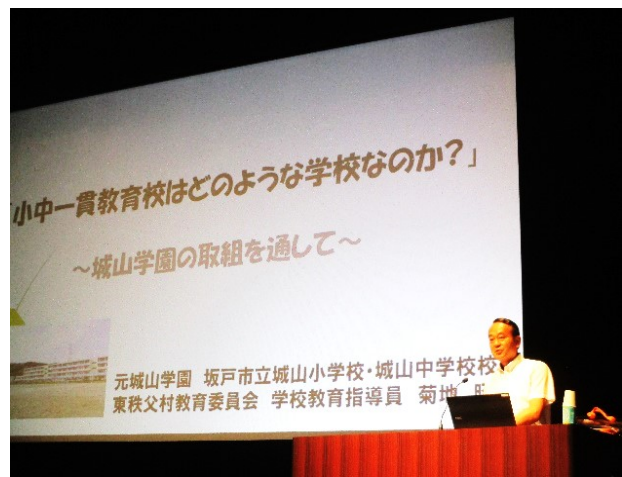
夏休み後半とはいえ、猛暑が続く中、4年ぶりに「教育講演会」が、町内の小・中学校教職員を対象に、川島町町民会館において開催されました。

今年のテーマは、「小中一貫教育」について。令和7年度から小中一貫教育がスタートするにあたり、改めて、全教職員の皆様に向けて、小中一貫教育についての理解を深め、具体的なイメージを持てる講演を行っていただきました。

毎年、講師に有識者を招いて開催していますが、今年は、東秩父村教育委員会 学校教育指導員（元城山学園 坂戸市立城山小学校・城山中学校校長）菊地 昭男 先生をお招きしました。菊地先生は、埼玉県初となる施設一体型・小中一貫教育校「城山学園 坂戸市立城山小学校・城山中学校(平成27年4月開校)」の初代校長を務められました。

演題「小中一貫教育校はどのような学校なのか？」

～城山学園の取組を通して～



「絶対に失敗しない」覚悟で取り組んだというお話や、当初は、行事一つでも、小・中学校の教員間に意見相違が生じるなど苦労も多かったが、「納得するまで話し合うなど、お互いが歩み寄る」ことに努め、乗り越えたこと等、示唆に富んだお話をいただきました。9年間を見通した学力の向上と、豊かな心を育む異年齢交流の実践についてお話を聞くことができ、令和7年度の開校に向けて具体的なイメージを持つことができました。ありがとうございました。裏面感想 →

講演会に参加した、各校教職員の感想、意見等

小学校 女性	<p>小中一貫教育の良さと課題を知ることができました。</p> <p>「イメージがわからない」という漠然とした不安がありましたが、講演を聴いて前向きに捉えられるようになりました。</p> <p>小中一貫の強みである9年間のつながりを意識したいです。中一ギャップや思春期の低年齢化からくる問題等、児童生徒が抱える不安の軽減を目指します。そして、児童生徒が環境の変化に少しでも早く慣れ、安心して通えるように教職員が一丸となって努めていくことが大切だと感じました。</p>
小学校 男性	<p>一貫した教育の中で児童一人一人の長所や特性をより早く発見し、適切な支援ができると学んだ。小学校教師のように全教科を担当する場合、各教科の連携の難しさもあるが、9年間の各教科の一貫性が高まると感じた。</p>
小学校 女性	<p>小中一貫校では、中学校と小学校の特性を活かした、より質の高い教育実践が可能だと改めて感じた。学力向上を目指した教科担任制等や特色ある学校行事を進め、心豊かな川島町の子供たちの育成に努めていきたい。</p>
小学校 男性	<p>6・3制を4・3・2制にしたことや、5年生から7年生の学習時間を一部50分授業に変更したことなど、具体的な改善策を聞くことができ、充実した研修になった。</p>
中学校 女性	<p>お話を聴いて、小中一貫の取り組みを具体的に知ることができました。特に豊かな心の育成という部分で、体験活動や行事を通して交流することにより9年間の見通しが立ちやすいと思いました。</p> <p>様々な課題に対して、子ども達のためにどうしたら一番よいのか、ということをお話を聴いて、教員間、保護者、地域の方などと対話を繰り返すことが必要だと感じました。</p>
中学校 女性	<p>9年間を見通した学力の向上と豊かな心を育む異年齢交流の実践についてお話を聞くことができ、令和7年度の開校に向けて具体的で前向きなイメージを持つことができました。貴重なお話をいただきありがとうございました。</p>

感想等、ありがとうございました。

■ 9か年を見通した教育課程の編成がスタート！

各小・中学校の川島中教頭・各校主幹教諭、教務主任の7名で、教育課程の具体について検討に入りました。8月25日（金）に第1回目を終え、現在は、一貫校の日課表作成に入っています。今後の主な検討事項としては、次のようなことが挙げられています。

- ① 日課表の作成
- ② 年間行事計画の作成
- ③ 乗り入れ授業や合同行事について
- ④ その他



板橋区 HP より

各校担当者には、オリジナルの教育課程編成等に尽力をいただき、感謝申し上げます。次回会議は **10月3日（火）** を予定しています。よろしくお願いいたします。